

## 著者紹介

### 井上 信吾

1997年横浜国立大学大学院電子情報工学科修士課程修了。三菱総合研究所研究員として情報セキュリティ関連技術の研究開発に従事。電子情報通信学会会員。現在、情報処理振興事業協会に出向中。

### 井上 大介

横浜国立大学大学院工学研究科人工環境システム学専攻博士課程後期2003年3月修了見込み。ステガノグラフィと匿名通信を中心とする情報セキュリティの研究に従事。

E-mail:dai@mlab.jks.ynu.ac.jp

### 井上 正

昭和56年特許庁入庁。現在、特許審査第四部審査調査室長。

### 岩切 宗利 (正会員)

昭和45年生。防衛大学校情報工学科助手。マルチメディアと情報セキュリティに関する研究に従事。博士(工学)。

### 梅澤 和彦

1985年東京大学工学部機械工学科卒業。同年NEC入社。現在、スーパーコンピュータ、大型サーバの実装技術の研究開発に従事。

### 大津由紀雄

専門領域は生成文法理論に基づく言語の認知科学(言語獲得、文解析など)、言語の脳科学、言語教育、科学教育にも関心がある。

### 上岡 英史 (正会員)

国立情報学研究所情報メディア研究系助手。1991年青山学院大学大学院理工学研究科物理学専攻博士前期課程修了。同年シャープ(株)通信技術研究所入社。1997年青山学院大学大学院博士後期課程修了(理学博士)。1997～98年日本学術振興会特別研究員(宇宙科学研究所)。1998年学術情報センターシステム研究系助手を経て現職に至る。ユビキタスコンピューティング、コンテキストウェア・コンピューティングに興味を持つ。電子情報通信学会、IEEE、日本物理学会各会員。E-mail:kamioka@nii.ac.jp

### 河口 英二 (正会員)

昭和44年九州大学大学院博士課程単位取得退学。同年九州産業大学講師。現在、九州工業大学工学部教授。パターン認識、画像処理、ステガノグラフィ、自然言語の意味表現の研究に従事。工学博士。

### 鈴木 雅貴

横浜国立大学大学院環境情報学府情報メディア環境学専攻博士課程後期在学。ステガノグラフィと耐タンパーソフトウェアを中心とする情報セキュリティの研究に従事。

E-mail:suzuki@mlab.jks.ynu.ac.jp

### 杉原 秀樹 (正会員)

奈良先端科学技術大学院大学情報科学センター教授。1988年慶應義塾大学理工学研究科後期博士課程修了。工学博士。インターネット、並列処理分散処理に関する研究に従事。

### 高橋 茂 (名誉会員)

職歴：1944年電気試験所に入る。1956年我が国最初のトランジスタ計算機ETL-Mk3開発。1962年日立製作所入社。1976年同社コンピュータ事業本部次長。1980年筑波大学教授。1986年東京工科大学教授。1996年同学長。1999年片柳学園理事(大学担当)。学歴：1944年慶應義塾大学・工・電卒業。1953年工学博士。本学会関係：1979～80年副会長。1988年功績賞受賞。1990年名誉会員。情報規格調査会顧問。歴史特別委員会委員長。

### 滝澤 修

1987年京都大学大学院工学研究科修士課程修了。独立行政法人通信総合研究所主任研究員。博士(工学)。自然言語処理、セキュリティ、および非常時通信技術の研究開発に従事。電子情報通信学会、人工知能学会、言語処理学会等各会員。

### 田中 哲朗 (正会員)

1965年生。1987年東京大学工学部計数工学科卒業。1992年同大学院博士課程修了。博士(工学)。東京大学工学部助手、同大教育用計算機センター助教授を経て、1999年より同大情報基盤センター助教授。

### 土井美和子 (正会員)

1979年東京大学工学系修士課程修了。現在(株)東芝研究開発センター主幹。博士(工学)。入力デバイス、道案内などの研究開発に従事。慶應義塾大学非常勤講師。総務省情報通信審議会委員。電子情報通信学会、HI学会、ACM各会員。

### 中川 裕志 (正会員)

昭和28年生。昭和50年東京大学卒業。昭和55年同大学院博士課程修了。工学博士。昭和55年より横浜国立大学勤務。平成11年より東京大学情報基盤センター教授。言語情報処理の研究に従事。

### 新見 道治 (正会員)

平成6年九州工業大学大学院博士前期課程修了。同年長崎総合科学大学助手。現在、九州工業大学工学部助手。画像解析、ステガノグラフィ、自然言語処理の研究に従事。

### 野田 秀樹

昭和50年九州大学大学院修士課程修了。警察庁科学警察研究所、郵政省通信総合研究所を経て、現在、九州工業大学工学部助教授。パターン認識、画像処理、ステガノグラフィ等の研究に従事。博士(工学)。

### 萩谷 昌己 (正会員)

昭和57年東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻修士課程修了。京都大学数理解析研究所を経て、現在、東京大学大学院情報理工学系研究科教授。基本的に、演繹的推論を計算上に実装することに興味を持っている。また、最近では、生命情報関連の研究(特に、分子計算)も行っている。

### 萩原 孝

1989年早稲田大学理工学研究科修士課程修了。同年NEC入社。以来、スーパーコンピュータSXシリーズのアーキテクチャ・性能に関する研究開発に従事。

### 藤崎哲之助

工学博士。1970年東京大学計数工学科卒業。1972年東京大学工学系大学院卒業。2000年コロンビア大学MBA卒業。1972年日本IBMサイエンティフィック・センター入社。1987年米国IBM T. J. Watson研究所入社。2002年よりコラボ・テクノロジー(株)代表取締役社長。

E-mail:fujisaki@collabotec.com

### 二村 良彦 (正会員)

1965年北海道大学理学部数学科卒業。1973年ハーバード大学応用数学科大学院修士課程修了。工学博士。早稲田大学理工学部情報学教授。同大ソフトウェア生産技術研究所所長兼務。

### 牧野 京子

1982年東京学芸大学教育学部卒業。現在、(株)三菱総合研究所情報技術研究部主任研究員。インフォメーションハイディングをはじめとする情報セキュリティ関連技術の調査研究開発に従事。

### 松井甲子雄 (正会員)

昭和14年生。防衛大学校情報工学科教授。暗号と情報ハイディングに関する研究に従事。工学博士。著書「電子透かしの基礎」(森北出版)で第15回電気通信普及財団賞受賞。

### 松本 勉 (正会員)

横浜国立大学大学院環境情報研究院教授。1986年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。情報セキュリティ全般に関心を持ち、研究と教育に従事。国際暗号学会IACR理事。E-mail:tsutomu@mlab.jks.ynu.ac.jp

### 矢野 直明

サイバーリテラシー研究所代表。編集者(ジャーナリスト)。朝日新聞出版局で「ASAHIパソコン」、「DOORS」などの雑誌を創刊。著書「インターネット術語集I、II」、「サイバーリテラシー」、「情報編集の技術」など。



# 第65回 情報処理学会 全国大会

これからがIT時代

第一期が終わり本格展開へ向けた第二期が始まる

2003.3.25<sup>TUE</sup> ▶ 27<sup>THU</sup>  
会場：東京工科大学 八王子キャンパス

公開講演（聴講無料） 3.26 WED 13:00-15:00 【メイン会場】

映画・アニメが進化する—デジタルで変わる映像表現の世界—  
篠田正浩（映画作家）、モンキーパンチ（漫画作家）、りんたろう（アニメ作家）  
司会：金子 満（東京工科大）

招待講演 3.25 TUE 10:40-11:40 【メイン会場】

The IEEE Computer Society—Implementing the Vision—  
Steve Diamond (IEEE-CS会長)

招待講演 3.27 THU 13:00-14:00 【メイン会場】

大学改革とIT人材の育成  
相磯秀夫（東京工科大学学長）

<b>T1 特別トラック</b> ユビキタスコンピューティング—都市と、家庭と、自動車内と— 他/CD-ROM2冊 チュートリアル2冊
基調講演(1)：ユビキタスコンピューティングの目指すもの：将来像と現状 徳田英幸（慶大） 基調講演(2)：ユビキタスコンピューティングテストベッドの目指すもの 森川博之（東大） 特別講演：情報家電における混合音認識の重要性：聖徳太子コンピュータ 奥乃 博（京大）
<b>T2 特別トラック</b> IPv6を基盤としたインターネットの新展開 他/CD-ROM3冊 チュートリアル2冊
基調講演：実空間インターネット：日本での役割・世界への責任 村井 純（慶大）
<b>T3 特別トラック</b> セマンティックWebとWebサービス 他/CD-ROM3冊 チュートリアル3冊
基調講演：XML、WEBサービス、セマンティックWEB 溝口理一郎（阪大）
<b>T4 特別トラック</b> ウェアラブルコンピューティング 他/CD-ROM2冊 チュートリアル2冊
基調講演(1)：ネイチャーインタフェイスへ向かうウェアラブル技術 板生 清（東大） 基調講演(2)：ウェアラブルコンピューティングの可能性 志水英二（大阪市立大） 招待講演(1)：ウェアラブルコンピューティングのビジネス展開 山村道男（サイブナー） 招待講演(2)：複合現実型情報強化環境—モバイル、ウェアラブル、ユビキタスの次に来るもの— 田村秀行（キヤノン）
<b>T5 特別トラック</b> マイニングとサーチング—情報洪水時代における情報発掘と情報検索— 他/チュートリアル2冊
特別講演(1)：Web情報検索の新技术と動向 風間一洋（NTT未来ねっと研） 招待講演(2)：Web構造マイニングとWebコミュニティ発見 村田剛志（情報学研） 招待講演(3)：ビジュアルな情報検索/テキストマイニング 武田浩一（IBM） 招待講演(4)：XMLデータのための検索技術 石川佳治（筑波大） 招待講演(5)：マルチメディア情報のための検索技術 片山記生（情報学研）
<b>T6 特別トラック</b> 言語バリアフリー技術 他/CD-ROM2冊
招待講演(1)：ユビキタスコンピューティングを利用した外国語学習システム 山田玲子（ATR） 招待講演(2)：失語症、記憶障害などの高次機能障害への工学的支援（仮題）安田 清（千葉労災病院） 招待講演(3)：言語横断検索技術の最新動向（仮題）岸田和明（駿河台大） 招待講演(4)：UNL (Universal Networking Language) とその将来（仮題）内田裕士（UNLD財団）
<b>T7 特別トラック</b> バーチャル・ヒューマン 他/CD-ROM2冊
招待講演(1)：言語理解と行動制御—プロセスレポート 田中穂積（東工大） 招待講演(2)：マルチモーダルエージェントコンテンツ作成を誰にでも—記述言語MPMLとその周辺— 石塚 満（東大） 招待講演(3)：VRの医学応用のための人体モデリング（仮題）高橋 隆（京大） 招待講演(4)：An Event-Driven Approach for Human Crowd Simulation Sung Yong SHIN (KAIST)

<b>T8 特別トラック</b> デジタルコンテンツ制作とIT 他/CD-ROM1冊 チュートリアル1冊
チュートリアル：モデリングチュートリアル 岡本直樹（東京工科大） アトラクション(1)：バーチャルセット体験 アトラクション(2)：リアルタイムMOCAAP体験
<b>T9 特別トラック</b> 消費者のためのセキュリティ—技術開発と普及活動— 招待講演(1)：Webセキュリティの虚と実 高木浩光（産総研） 招待講演(2)：キャンパスネットワークの運用管理 三木哲也（電通大）
<b>T10 特別トラック</b> e-Japanの進展—企業活動や社会生活に変革をもたらす電子政府・電子自治体— 他/CD-ROM1冊 チュートリアル1冊
基調講演：e-Japanの行方と展望（仮題） 大山永昭（東工大）
<b>T11 特別トラック</b> 情報技術国際標準化 SC17：個人識別カードの標準化と最新の利用動向（講演5件） SC37：バイオメトリクス技術の国際標準化と日本の対応（講演4件、パネル討論） SC31：データキャリア標準化の最新動向とアプリケーション事例（講演4件） SC34：ISO/IECにおける文書記述・処理言語の標準化動向（講演2件）
シンポジウム 情報および情報関連分野のアクレディテーション活動報告—IS領域の試行審査を中心として—

■参加費（税込）	■講演論文集（税込）	(2/14迄)	
		予約価格	定価
正会員：2,100円	5冊セット（CD-ROM付）	25,200円	33,600円
非会員：4,200円	分冊（CD-ROM1枚付）	7,350円	9,450円
学生：無料	CD-ROM	6,300円	12,600円

問合せ先：社団法人 情報処理学会 事業部門 E-mail:taikai@ipsj.or.jp Tel.(03)5484-3535 Fax.(03)5484-3534

聴講参加申込と講演論文集の予約は公式サイトで！

<http://www.ipsj.or.jp/katsudou/taikai/65taikai.html>

# 会員の広場

## Member's Voice

今月の会員の広場では、12月号へのご意見・ご感想を紹介いたします。まず、12月号の特集「テキスト自動要約」に対し、多くのご意見をお寄せいただきました。

■自動要約は、読み手だけでなく書き手も使って論旨の推敲に役立てるとよいかもかもしれません。(匿名希望)

■これまで言語処理といえば、コンパイラに代表されるコード変換処理程度の認識しかなかったが、大量の情報から必要な情報を素早く取り出す技術としての最新動向を知り、参考になった。(匿名希望)

■興味深く読ませていただきました。要約というと、入力された文章を理解し、理解した内容を短く出力するというイメージが強いのですが、表層的な処理だけでもある程度の要約が可能であることがよく分かりました。(匿名希望)

■テキストの要約や言い換えの例だけでなく、コンピュータが自然言語を生成して失敗しているところも見てみたいと思いました。(匿名希望)

■久しぶりの日本語テキスト周りの記事を読ませていただき、かなり難しい問題で、かつ興味深い研究をしていると思った。やはり、要約等の人間の複雑な思考や個人的な思いを入れて文章をまとめるという行為を、計算機で自動的に行おうすることだけに、少しアプナイ(?)技術である感じもするが、それだけに、この分野の研究者の挑戦的なタスクであると思う。Q & Aの技術も、人間のQuestionは、普通、ヒトに尋ねるには、色々な手を使って行うが、これを自然言語処理技術で立ち向かおうというのだから、これまた恐ろしく、凄いこと。Answerがほぼ一意に決まる問題でしか評価はできないことだが、多分、人間は、色々な解があったり、解そのものが存在しなかったりするQuestionに対しても、ある程度曖昧な答え(?)を導くことができると思う。これからの、ロボットとか、エンジンとか、一体何に役に立つのか分からないけれど、楽しみな分野なので、将来より成熟して応用技術に現れてくることを期待したいです。(小金沢雄一)

■自動要約について、以前はその存在意義に疑問を持っていました。しかし近年のWebを経由してのテキスト情報の多さを身近に感じられるようになる今日では、自動要約の技術の有用性を実感するとともに、さらなる発

展を期待しています。

(匿名希望)

■国語の宿題はコンピュータがやってくれるようになったのかと思いましたが、そうではなさそうなので安心しました。テキスト自動要約は面白い話だと思います。

(桔梗宏孝)

特集「オープンソースソフトウェア」には多くのご意見をお寄せいただきました。

■オープンソースソフトウェアについて、その定義からビジネスモデルと今後の展望までが分かりやすくまとまっていた。今後さらに応用範囲も広がりますます普及しますよう今後の活用事例に期待したいと思います。

(匿名希望)

■オープンソースソフトウェアは、使い勝手がよくない場合には、自由にカスタマイズできるという点で、重宝しています。ただし、著作権の絡みがでてきますので、今後の議論に委ねる必要のある部分もあると思います。

(水野光朗)

■実際にLinuxを始めとしたオープンソースソフトウェアを利用して、商用のシステム構築をしているので、大変興味深く読ませていただきました。利用する立場からすると、ディストリビュータが台頭してくることで、オープンソースソフトウェアの良さが失われていくことがないか最近気がかりです。

(匿名希望)

■オープンソースソフトウェアというと、すぐにLinuxを思い浮かべてしまうのだが、その他にもさまざまなスタイルがあるというのを、改めて確認できた。政府機関もオープンソースソフトウェアを採用する動きがあるらしいので、話題的にも時期に適したテーマだったと思う。

(匿名希望)

■オープンソースソフトウェアの特集は大変興味深く読ませていただきました。コンピュータの社会はリソースの提供者と利用者の間が近いとは思っていましたが、階層も非常に大きいと思っていました。でも本当はそれほどでもないかもしれないですね。問題は需要と供給との関係が大量生産型ではないのに実際に流れている量は非常に大きいということでしょうか。

(菊池隆治)

コラム「ITルネサンスのために：ヒューマンインタフェースの復権」には多くの反響をいただきました。以下にご意見を紹介します。

■「ITルネサンスのために」を、感心して読みました。最後の「HI(ヒューマンインタフェース)には客観的な基準が存在しない」というのが問題である、というところに共感しました。最近には本当に客観的な基準がないものが、時間や費用のために切り捨てられる傾向が高いと思います。使いやすさなど製品テストをしている雑誌やHPはあるのですが、製品の数や変更が多いために、必要なときに必要な評価情報をなかなか得ることができま

せん。昔、家電などが雑誌「暮しの手帖」の評価で売上が影響したことで、メーカーが「使いやすさ」に真剣に取り組んだと聞きます。IT 機器やソフトでもその売上に影響をあたえる評価団体・メディアがあれば、日本のIT 産業に良い影響を与えることができるのではないかと考えました。(山本 誠)

■会誌に批判的、否定的な内容の解説や記事が掲載されることは少ない。多くの人々が感じている不具合や疑問が、製品に対するものならば、放って置いたとしても、その製品は自然淘汰され、市場から消えて行くから、あまり気に止めなくてもよい。しかし、規格や公的なものとなると問題が違ふ。ここに TWIN の問題を指摘した天野氏の勇気を賞賛すると共に、今後の改善に向けての働きかけを希望します。ただ、TWIN を使ったことのない者には、内容がくだすぎるといった印象が残ったコラムでしたが、これからは異論や反論の記事をもっと増やしてもよいのではと思ひ意見を寄せました。

(匿名希望)

■以前から言われていることだが、IT 関連のことは分かる人には分かり、分からない人にはいつまでたっても分からないという現象が起きる。それは、学習者の素養や努力の問題だけでなく、設計者のちょっとした配慮によっても変わり得る問題であると感じた。最近、カタカナ語の氾濫を見直そうという動きがある。とかく英語をそのままカタカナで表記した語や略語を情報系にいる我々は使いがちであり、この点についても心がけておく必要がある。(嘉村友作)

解説「未踏ソフトウェア創造事業」にも多くのご意見をいただきました。

■未踏ソフトウェア創造事業は、事業開始の発表後どうなったかの情報が一般には知られていなかったと思います。本事業、成果ともさらにアピールされるべきではないでしょうか(アメリカではこういうことを民間投資家が行っているのですね)。(匿名希望)

■以前、IPA の事業に応募し、そのドキュメントの多さ、支払い上の問題、権利の帰属から来るビジネス上の障害を経験し、すっかり遠ざかっていたが、多くの点で改善されていることに驚いた。ソフトウェアの優劣は、個人の才能に依存するものだから、審査する側もその個人に賭けるというスタンスは必須なことだろう。今後は、ソフトウェアを企業化し、それを大きく育てる仕組み、そこから国がまた還元を受ける仕組みを発展させて、日本のソフトウェア立国を支えてくれることに期待する。

(匿名希望)

その他の記事に関しまして、以下のご意見をいただきました。

■事例「企業からリアルコミュニティへ情報共有プラットフォームとしての EIP -」の EIP は、次世代システムの考え方としての重要性が述べられており、参考になりました。人工衛星を用いた GPS や病院内職員で活躍する MPS 等それぞれの持ち味と考え方は、こうした Web システムにも適用できる部分があるのではと、夢ふくらむ想いでおります。(山口 周)

■コラム「研究会たより」: 日本語について深く考えることなく、ただ成り行きに任せて使っていることが多い。よく考える 1 つの材料になりました。(水野光朗)

■総目次はいざ読みたいと思ったときに役立ちます。(合田忠彦)

会誌や掲載記事に関するご意見・ご感想は学会ウェブページでも受け付けております。今後もよりよい会誌を作るため、ぜひ皆様のお声をお寄せください。

【本欄担当 大野 晋, 鈴村幸太郎 / 書評・ニュース分野】



## ご意見をお寄せください!!

皆様にとって会誌をより役立つものとするため、

- ・記事に対する感想、意見
- ・記事テーマの提案
- ・会誌または学会に対する全般的な意見、提言
- ・その他、情報処理技術についての全般的な意見、提言

など、自由なご意見、ご感想をお待ちしております。

なお、「道しるべ」については

<URL:<http://www.ipsj.or.jp/katsudou/mag/michishirube.html>>

でこれからのテーマ案を募集しており、いただいたご意見をまとめております。

ご意見、ご感想を会誌に掲載させていただいた方には薄謝を進呈いたします。掲載に際しては、編集の都合上、ご意見に手を加えさせていただくことがあります。あらかじめご了承ください。

応募先 〒108-0023 東京都港区芝浦 3-16-20 芝浦前川ビル 7F  
情報処理学会 会誌担当 E-mail:editj@ipsj.or.jp Fax:(03)5484-3534  
<http://www.ipsj.or.jp/enq/enq4403.html>



## IPSJ カレンダー

行事名	開催日	会場
第 132 回知能と複雑系研究発表会 <a href="http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/ICS132.html">http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/ICS132.html</a>	2003/3/13 (木) ~ 2003/3/15 (土)	大阪市立大学
第 43 回プログラミング研究発表会 <a href="http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/PRO43.html">http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/PRO43.html</a>	2003/3/18 (火) ~ 2003/3/19 (水)	情報処理学会会議室 (芝浦)
第 47 回グループウェアとネットワークサービス研究発表会 <a href="http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/GN47.html">http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/GN47.html</a>	2003/3/19 (水) ~ 2003/3/20 (木)	名古屋大学
第 112 回マルチメディア通信と分散処理研究発表会 <a href="http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/DPS112.html">http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/DPS112.html</a>	2003/3/20 (木)	NTT ドコモ R&D センタ
東海支部 講演会「日本における最近の I C カード利用動向と世界の事例」開催案内 <a href="http://www.ipsj.or.jp/sibu/tayori.html">http://www.ipsj.or.jp/sibu/tayori.html</a>	2003/3/24 (月)	NTT データ東海支社
第 9 回ゲーム情報学研究発表会 <a href="http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/GI9.html">http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/GI9.html</a>	2003/3/24 (月)	早稲田大学
第 65 回全国大会 <a href="http://www.ipsj.or.jp/katsudou/taikai/65taikai.html">http://www.ipsj.or.jp/katsudou/taikai/65taikai.html</a>	2003/3/25 (火) ~ 2003/3/27 (木)	東京工科大学八王子キャンパス
第 137 回コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会 <a href="http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/CVIM137.html">http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/CVIM137.html</a>	2003/3/27 (木) ~ 2003/3/28 (金)	東京大学生産技術研究所
第 70 回情報学基礎研究会・第 38 回デジタル・ドキュメント研究会合同研究発表会 <a href="http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/FI70DD38.html">http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/FI70DD38.html</a>	2003/3/28 (金)	情報処理学会会議室 (芝浦)
北海道支部 情報処理北海道シンポジウム 2003 (照会先: 北海道支部 E-mail: <a href="mailto:hokkaido@ipsj.or.jp">hokkaido@ipsj.or.jp</a> ) <a href="http://www.ipsj.or.jp/sibu/hokkaido">http://www.ipsj.or.jp/sibu/hokkaido</a>	2003/4/17 (木) ~ 2003/4/18 (金)	北海道大学学術交流会館

行事名	論文応募締切日	会場
第 21 回コンピュータセキュリティ研究発表会 (2003/5/15-16 開催) 発表論文募集 <a href="http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/CSEC21.html">http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/CSEC21.html</a>	2003/3/20 (木)	弘前大学
第 130 回データベースシステム研究会第 71 回情報学基礎研究会合同研究発表会 (2003/5/22-23 開催) 発表論文募集 <a href="http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/DBS130FI71.html">http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/DBS130FI71.html</a>	2003/3/21 (金)	慶應義塾大学三田キャンパス
第 58 回人文科学とコンピュータ研究発表会 (2003/5/30 開催) 発表論文募集 <a href="http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/CH58.html">http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/CH58.html</a>	2003/3/25 (火)	上野市勤労会館 (三重県)
第 84 回情報システムと社会環境研究発表会 (2003/6/19 開催) 発表論文募集 <a href="http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/IS84.html">http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/IS84.html</a>	2003/3/28 (金)	情報処理学会会議室 (芝浦)
論文誌「ユビキタス環境のモバイル通信システムと ITS」特集論文投稿 <a href="http://www.ipsj.or.jp/toukou/tokushuu/mblits.html">http://www.ipsj.or.jp/toukou/tokushuu/mblits.html</a>	2003/3/31 (月)	
東海支部 平成 14 年度学生論文奨励賞 論文募集 (照会先: 東海支部 E-mail: <a href="mailto:t-ipsj@tcp-ip.or.jp">t-ipsj@tcp-ip.or.jp</a> ) <a href="http://www.ipsj.or.jp/sibu/tokai/tokahome.html">http://www.ipsj.or.jp/sibu/tokai/tokahome.html</a>	2003/3/31 (月)	
論文誌「インタラクション: 理論・技術・応用・評価」特集論文投稿 <a href="http://www.ipsj.or.jp/toukou/tokushuu/hi.html">http://www.ipsj.or.jp/toukou/tokushuu/hi.html</a>	2003/4/10 (木)	
第 44 回プログラミング研究会 (PRO-2003-1) (2003/6/16-17 開催) <a href="http://www.ialab.is.tsukuba.ac.jp/~maeda/pro/2003-1/">http://www.ialab.is.tsukuba.ac.jp/~maeda/pro/2003-1/</a>	2003/4/16 (水)	筑波大学大塚キャンパス
論文誌「ユビキタス時代のインターネット/分散システムの構築・運用技術」特集論文投稿 <a href="http://www.ipsj.or.jp/toukou/tokushuu/dsm.html">http://www.ipsj.or.jp/toukou/tokushuu/dsm.html</a>	2003/4/25 (金)	
2003 年並列/分散/協調処理に関する『松江』サマー・ワークショップ (SWoPP 松江 2003) (2003/8/4-6 開催) 発表論文募集 <a href="http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/SVoPP2003.html">http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/SVoPP2003.html</a>	2003/4/25 (金)	
論文誌「ブロードバンドネットワークサービス」特集論文投稿 <a href="http://www.ipsj.or.jp/toukou/tokushuu/dps.html">http://www.ipsj.or.jp/toukou/tokushuu/dps.html</a>	2003/5/9 (金)	
論文誌「コラボレーションの「場」とコミュニティ」特集論文投稿 <a href="http://www.ipsj.or.jp/toukou/tokushuu/gn.html">http://www.ipsj.or.jp/toukou/tokushuu/gn.html</a>	2003/5/15 (木)	
論文誌「音楽情報科学」特集論文投稿 <a href="http://www.ipsj.or.jp/toukou/tokushuu/mus.html">http://www.ipsj.or.jp/toukou/tokushuu/mus.html</a>	2003/6/30 (月)	
The 2004 Symposium on Applications and the Internet (SAINT2004) 2004 年 1 月 26-30 日開催 <a href="http://www.saint2004.org/">http://www.saint2004.org/</a>	2003/7/1 (火)	東京

■ 2003 年 2 月 20 日  
・ 第 482 回理事会報告

■ 2003 年 2 月 19 日  
・ 論文誌 (ジャーナル) の論文査読状況を更新いたしました。

■ 2003 年 2 月 18 日  
・ 平成 15 年度「役員・代表会員選挙」ご投票のお願い ★投票締切: 3 月 3 日 (月) (必着)  
・ 論文誌 (ジャーナル) 執筆要項のキーワード・チェックリスト (英文) を更新いたしました。

■ 2003 年 2 月 14 日  
・ 論文誌 (ジャーナル) の採録論文一覧を更新いたしました。

■ 2003 年 1 月 31 日  
・ 平成 15 年度「役員・代表会員選挙: 候補者名簿」

■ 2003 年 1 月 29 日  
・ 電子図書館の論文誌 (ジャーナル) 44-1 号を掲載いたしました。  
・ 「論文査読をお願いした方々へ」を掲載いたしました。

■ 2003 年 1 月 27 日  
・ 会員優待サービスが追加されました。

■ 2003 年 1 月 24 日  
・ 第 481 回理事会報告

■ 2003 年 1 月 22 日  
・ 平成 15 年度から「ユビキタスコンピューティングシステム研究会」が新設されます。すでにいずれかの研究会にご登録の方は 2 月上旬に発送予定の案内により手続きください。新規に研究会登録をご希望の方は各種申込の研究会登録申込より手続きください。

■ 2003 年 1 月 20 日  
・ 論文誌「ブロードバンドネットワークサービス」特集への論文投稿のご案内を登録いたしました。  
・ 論文誌 (ジャーナル) の今月採録論文一覧を更新いたしました。  
・ 論文誌 (ジャーナル) の論文進行状況を更新いたしました。

# 人材募集 (有料会告)



**申込方法:** 任意の用紙に件名、申込者氏名、勤務先、職名、住所、電話番号および請求書宛先などを記載し、掲載希望原稿（[募集職種、募集人員、(所属)、専門分野、(担当科目)、応募資格、着任時期、提出書類、応募締切、送付先、照会先]）を添えて下記の申込先へ E-mail、Fax または郵送にてお申し込みください。  
\*都合により編集させていただく場合がありますので、ご了承ください。

**申込期限:** 毎月15日を締切日とし翌月号（15日発行）に掲載します。

**掲載料金:** 国公立教育機関、国公立研究機関 20,000円（+税）  
賛助会員（企業） 30,000円（〇）  
賛助会員以外の企業 50,000円（〇）

**申込先:** 情報処理学会 会誌部門（有料会告係） E-mail:editj@ipsj.or.jp Fax(03)5484-3534  
\*人材募集広告は会誌と同時にオーム社発行月刊誌「コンピュータ&ネットワーク LAN」にも掲載されることになりました（料金の追加はありません）。ただしオーム社側の掲載については字数などの関係から大幅に編集されることをご了承ください。

\*特に指定がないかぎり履歴書には写真を貼付のこと

## ■沖縄工業高等専門学校メディア情報工学科

**募集人員** 平成16年度・OS:コンパイラ-教授 1名  
平成17年度・デジタル回路-教授 1名  
平成18年度・モバイル通信-教授 1名 CG-助教 1名  
平成20年度・データベース-助教 1名  
\*ただし、〇〇:△△とあるのは、〇〇と△△の両方の領域で1の専門分野の意である

**応募資格** 高等専門学校設置基準の教員の資格によるほか、次をすべて満たす方:博士の学位（採用までに取得見込みを含む）またはこれと同等以上の教育研究能力を有する。高等専門学校における教育研究に意欲があり、学生指導（学級担任を始め、寮生指導、課外活動など）に理解と熱意がある方。当該専門分野に精通し、本高等専門学校の創設の考え方にに基づき、運営などに協調して参画できる。採用時点で満57歳以下の方

**提出書類** 履歴書（様式1）、教育研究業績一覧（様式2）、主要論文・特許など（5件以内）の別刷（各3部、コピー可）、高等専門学校における教育研究に対する抱負（2000字以内） \*異なる2以上の専門分野を希望する場合は、その旨および希望する専門分野を記した書面（様式は自由）を添付すること。様式1,2は沖縄工業高等専門学校ホームページよりダウンロードしてご利用ください。なお、本高等専門学校の創設の考え方（「沖縄工業高等専門学校の創設について」）も、同ホームページに掲載されているので参照のこと（<http://www.okinawa-ct.ac.jp>）

**応募締切** 平成15年3月31日（必着）

**送付先/照会先** 〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1（琉球大学内）沖縄工業高等専門学校庶務係 E-mail:syomu@okinawa-ct.ac.jp  
Tel(098)895-8091 Fax(098)895-8128 「〇〇〇学科教員応募書類在中」と朱書き書留 \*提出書類は返却いたしません

**その他** 採用方法:本校の採用計画または毎年度の予算に基づき、平成16年度から平成20年度（19年度を除く）までの各年度に渡って、順次採用する。本校において選考し、教員候補者として内定する。教員候補者は、文部科学省の大学設置・学校法人審議会の教員資格審査を経て、採用予定者として内定する。採用予定者の採用時期は、採用予定年度の予算成立後とする  
選考方法:書類審査、面接（書類審査結果が「可」の方のみ）

## ■神戸大学都市安全研究センター

**募集人員** 教授 1名

**所属** 都市情報システム研究分野 工学部情報知能工学科および大学院自然科学研究科を兼任

**専門分野** データベース、ネットワーク応用、メディア情報処理、パターン認識など

**担当科目** 情報知能工学科の授業科目のうちデータベース、アルゴリズムとデータ構造、コンピュータグラフィクスから2科目、博士課程前期および後期課程の授業を担当

**応募資格** 博士の学位を有し、都市情報システム、特に上記専門分野に十分な研究業績があり、博士後期課程も担当可能な55歳までの方

**着任時期** 決定次第できるだけ早い時期（遅くとも平成15年10月1日）

**提出書類** 履歴書（学歴、職歴、研究歴、学位、受賞歴、所属学会、連絡先）、研究業績の概要（A4用紙2枚程度）、研究業績リスト（次の項目別に細目に分けて詳細に記載:（1）研究業績:学術論文（査読の有無を明示）、専門書、招待講演、国際会議発表、学術講演、シンポジウム・研究会発表、知的所有権など（2）教育業績:教科書の執筆、講義形態あるいは博士・修士・学部生の指導経験などの実績と教育期間、社会での教育活動状況など（3）研究費の導入実績:科学研究費、共同研究、受託研究、各種公的研究費、奨学寄付金など（代表のみ）（4）学会・社会での業績:国際会議やシンポジウムなどの企画・開催、学会役員、国際専門誌の編集委員、審議会委員など）、主要論文別刷（5編、コピー可）各1部、研究・教育に関する抱負（A4用紙1枚程度）、照会できる方2名の氏名・所属・連絡先

**応募締切** 平成15年4月15日（必着）

**送付先/照会先** 〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学都市安全研究センター 副センター長 田中泰雄  
E-mail:ytgeotec@kobe-u.ac.jp Tel(078)803-6058 <http://www.kobe-u.ac.jp/~tosi/kohbo.html> 「人事候補者資料」と朱書

## ■日本大学生産工学部数理工学情報工学科

募集人員 教授または助教 1名  
 専門分野 情報工学または関連分野  
 担当科目 アルゴリズム、ソフトウェア工学など  
 応募資格 大学院を指導できること、ソフトウェア開発の実務経験があることが望ましい  
 着任時期 平成15年9月1日以降のなるべく早い時期  
 提出書類 履歴書、研究業績書、論文別刷、現在までの研究概要(1000字程度)、着任後の教育・研究に対する抱負(1000字程度)、本人に関する所見を求め得る方2名の氏名・連絡先  
 応募締切 平成15年4月30日  
 送付先 〒275-8575 千葉県習志野市泉町1-2-1 日本大学生産工学部 数理工学情報工学科事務 「応募書類在中」と朱書き書留  
 照会先 数理工学情報工学科 学科主任 篠原正明 E-mail:suuri@cit.nihon-u.ac.jp Tel(047)474-2672  
 その他 選考にあたっては書類審査後、面接を実施することがあります。選考結果は応募者ご本人に通知します

## ■防衛大学校電気情報学群情報工学科

募集人員 教授 2名(下記分野ごとに1名以内)  
 専門分野 (1)情報セキュリティ(暗号の理論と応用)(2)制御工学、信号処理とそれらの応用(3)情報システム(ソフトウェア基礎、コンピュータ・ネットワーク、ヒューマン・インタフェースなど)  
 応募資格 博士号またはPh.D.の学位を有し、大学院修士、博士レベルの教育・研究指導が可能な方で、最近5年間に5編以上の査読付き論文が公刊(または受理済み)されていること。年齢は50歳代が望ましいが、それ以外の方も考慮します  
 着任時期 平成15年10月1日(相談によりそれ以降の着任も可)  
 提出書類 履歴書(ワープロ可)、研究業績一覧、主要論文別刷(コピー可)、これまでの研究概要と今後の研究計画(1000字程度)  
 応募締切 平成15年4月30日(必着)  
 送付先/照会先 〒239-8686 神奈川県横浜須賀町1-10-20 防衛大学校情報工学科 学科長 山田武夫  
 E-mail:yamada@nda.ac.jp Tel(0468)41-3810(ext.2435) 「教官応募書類在中」と朱書き簡易書留  
 その他 書類選考の上、候補者に対して面接を行います

## ■早稲田大学理工学部応用物理学科

募集人員 講師、助教、または教授 1名(職位は教育研究経歴、年齢によって早稲田大学が決定する)  
 所属 応用物理学科(大学院理工学研究科物理学及応用物理学専攻も兼任)。当学科では講座制ではなく、各自独立して研究室を運営している。また、教育・研究両面で物理学科と密接に連携している  
 専門分野 計測・制御、情報システム  
 応募資格 博士号取得者。年齢:着任時50歳程度まで。上記関連のテーマを応用物理学的基盤に立って研究している方で、従来の枠にとらわれず、新しい理工学の展開にも意欲的な方。教育面では、専門科目として、「回路理論」、「ダイナミカルシステム」あるいは「計測・情報システム」などに関する講義ができる方。また、基礎科目の物理学(講義、実験)も担当可能な方  
 着任時期 平成16年4月1日、またはそれ以降のなるべく早い時期  
 提出書類 履歴書、研究業績リスト、主要論文別刷(5編以内)、研究歴と研究概要、着任後の研究計画と教育への抱負、応募者について照会可能な方2名の氏名と連絡先 \*書類はすべて2部ずつ。コピーも可  
 応募締切 平成15年5月9日(必着)  
 送付先 〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1 早稲田大学理工学部応用物理学科 主任 竹内 淳  
 照会先 応用物理学科 橋本周司 E-mail:shuji@shalab.phys.waseda.ac.jp Tel(03)5286-3233 Fax(03)3202-7523  
 http://www.phys.waseda.ac.jp/index-j.html 「応物公募書類在中」と朱書き簡易書留 \*応募書類は返却いたしません  
 その他 適任者がいない場合は採用を見送ることもあります

## ■熊本大学工学部電気システム工学科

募集人員 助教 1名  
 所属 電気システム先端技術講座  
 専門分野 情報通信、特にワイヤレスブロードバンド通信とその応用  
 担当科目 マルチメディア工学、ワイヤレス通信工学、情報ネットワーク論など  
 応募資格 博士号取得者で上記専門分野に関して大学院博士後期課程を担当できる方。年齢35歳前後までの方。情報ネットワーク管理のできる方が望ましい  
 着任時期 決定後できるだけ早い時期  
 提出書類 履歴書(Eメールアドレスを連絡先欄に記入)、研究業績リスト(研究論文、国際会議論文、講演発表、著書、教育歴、外部研究費取得(科学研究費採択、産学連携共同研究費、各種助成金など)、特許取得、その他に分類し、共著者はすべて記入のこと)、主要論文のコピー(10編以内)、現在までの研究概要と将来の抱負(1000字以内)、学生への教育に対する抱負(1000字以内)、応募者についての所見をいただける方2名の氏名・連絡先・電話番号・Eメールアドレス、推薦者のある場合はその推薦書  
 応募締切 平成15年5月30日(必着)  
 送付先/照会先 〒860-8555 熊本県熊本市黒髪2-39-1 熊本大学工学部電気システム工学科長 宮原邦幸  
 E-mail:miyahara@eecs.kumamoto-u.ac.jp 「マルチメディア助教応募書類在中」と朱書き簡易書留  
 \*提出書類は返却いたしません

## ■筑波大学図書館情報学系

募集人員 講師 1名  
 所 属 情報メディアシステム分野  
 専門分野 ネットワークメディアシステム、次世代 Web や情報資源システムなどの基盤となるネットワークメディアシステムの領域  
 担当科目 学部および大学院（博士前期課程および博士後期課程）の情報メディアシステム関連の科目  
 応募資格 博士の学位を有すること  
 着任時期 平成 15 年 10 月 1 日以降、遅くとも平成 16 年 4 月 1 日  
 提出書類 履歴書、研究業績リスト、主な学術論文のコピー、教育に対する抱負、研究計画、推薦書 2 通または応募者について所見をいただける方 2 名の氏名・連絡先（E-mail または電話） \*書類は各 5 部（コピー可）、応募書類は返却いたしません  
 応募締切 平成 15 年 5 月 30 日（必着）  
 送付先/照会先 〒 305-8550 茨城県つくば市春日 1-2 筑波大学図書館情報等教育研究支援室総務係  
 「講師（ネットワークメディアシステム）応募書類在中」と朱書き簡易書留  
 そ の 他 詳細は <http://jrecin.jst.go.jp/> を参照ください。書類選考後に面接を行うことがあります

## ■理化学研究所

募集人員 70 名程度（連続して最長 3 年間で限度とし、毎年度所要の評価により契約更新）  
 募集分野 物理学、化学、生物科学、医科学、工学の各分野で、理化学研究所で実施可能な研究  
 応募資格 平成 16 年 4 月 1 日現在 35 歳未満で、自然科学の博士号取得者またはこれと同等の能力を有すると認められる方  
 日本国に永住権を有さない外国人にあっては、上記に加え次の条件を満たす方：応募日現在に日本国に在住している、日本国の大学院博士課程を修了（見込みを含む）し、博士号を取得（見込みを含む）している方  
 着任時期 平成 16 年 4 月 1 日  
 提出書類 応募要項頒布開始は 4 月上旬予定。応募要項の請求は、下記 Fax または E-mail へ (1) 郵便番号 (2) 住所 (3) 氏名（漢字）(4) 氏名（カタカナ）を記入し、送信すること \*要項代は無料  
 応募締切 平成 15 年 5 月 30 日（必着）  
 送付先/照会先 〒 351-0198 埼玉県和光市広沢 2-1 理化学研究所研究調整部研究交流課 基礎科学特別研究員担当  
 E-mail:wakate@postman.riken.go.jp Tel(048)467-9268（直通） Fax(048)463-3687  
 そ の 他 待遇など（平成 14 年度実績）：謝金-月額 51 万円（社会保険、税込）、通勤費-実費（上限 4 万 5 千円/月）、住宅費-家賃の一部支給、研究費-130 万円  
 本件は、政府予算の成立を前提としており、また当研究所は独立行政法人に移行予定ですので、手続きなどを一部変更する場合があります

## ■筑波大学図書館情報学系

募集人員 教授 1名  
 所 属 情報メディア開発分野  
 専門分野 ネットワーク上における知識と情報の共有を支えるネットワークコンテンツに関し、その蓄積・流通ならびに利用支援にかかわる技術的領域を担当する。ネットワーク環境における知識と情報の共有技術、多言語・多形態コンテンツによる情報表現とアクセス支援技術、柔らかな情報アクセス支援技術、大容量ネットワークコンテンツを対象とする内容解析・理解技術等の分野に関連する領域  
 担当科目 学部および大学院の情報メディア開発関連の科目  
 応募資格 博士の学位を有すること  
 着任時期 平成 15 年 10 月 1 日以降、遅くとも平成 16 年 4 月 1 日  
 提出書類 履歴書、研究業績リスト、主な論文のコピー、教育に対する抱負、研究計画、推薦書 2 通または推薦者 2 名の氏名・連絡先（E-mail または電話） \*各 5 部、提出書類は返却いたしません  
 応募締切 平成 15 年 6 月 2 日（必着）  
 送付先/照会先 〒 305-8550 茨城県つくば市春日 1-2 筑波大学図書館情報等教育研究支援室総務係  
 「教授（コンテンツ共有技術）応募書類在中」と朱書き簡易書留  
 そ の 他 詳細は <http://jrecin.jst.go.jp/> を参照ください。書類選考後に面接を行うことがあります

■筑波大学図書館情報学系

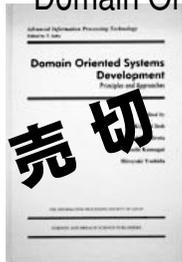
募集人員 助教授 1名  
 所 属 情報メディア開発分野  
 専門分野 ネットワーク上における知識と情報の共有を支えるコンテンツの表現にかかわる技術領域。具体的にはCG, VR, MRのようなコンテンツ作成技術  
 担当科目 学部および大学院の情報メディア開発関連の科目  
 応募資格 博士の学位を有すること  
 着任時期 平成15年10月1日以降、遅くとも平成16年4月1日  
 提出書類 履歴書、研究業績リスト、主な論文のコピー、教育に対する抱負、研究計画、推薦書2通または推薦者2名の氏名・連絡先（E-mailまたは電話）\*各5部、提出書類は返却いたしません  
 応募締切 平成15年6月3日（必着）  
 送付先/照会先 〒305-8550 茨城県つくば市春日1-2 筑波大学図書館情報等教育研究支援室総務係  
 「助教授（コンテンツ作成技術）応募書類在中」と朱書き簡易書留  
 そ の 他 詳細は <http://jrecin.jst.go.jp/> を参照ください。書類選考後に面接を行うことがあります

有  
料  
会  
告

情報処理学会 英文図書シリーズ

## Advanced Information Processing Technology

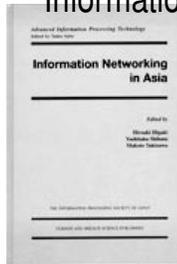
Domain Oriented Systems Development



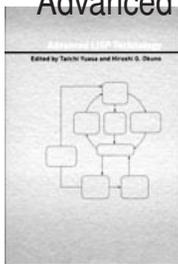
Designing Communication and Collaboration Support Systems



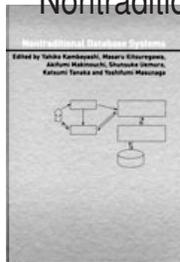
Information Networking in Asia



Advanced LISP Technology



Nontraditional Database Systems



Domain Oriented Systems Development: Perspectives and Practices



英文図書シリーズのご注文は、... <http://www.ipsj.or.jp/library/shoseki/eibun.html>

# FIT2003 (情報科学技術フォーラム)

## 講演募集案内

【期日】平成 15 年 9 月 10 日 (水) ~12 日 (金)

【場所】札幌学院大学 (北海道江別市)

FIT2003 ホームページ  
<http://www.ipsj.or.jp/katsudou/fit/fit2003.html>

FIT (情報科学技術フォーラム) は情報処理学会全国大会と電子情報通信学会ソサイエティ大会を統合した国内で最大の情報技術関連会議です。昨年は東京工業大学で開催され、863 件の講演発表、1580 人の参加がありました。今年は場所を北海道に移し、札幌近郊の札幌学院大学で開催されます。

FIT の最大の特徴は**船井ベストペーパー賞**、**FIT 論文賞**、**ヤングリサーチャー賞**からなるその論文表彰制度にあり、以下のようにまとめられます。

<b>船井ベストペーパー賞</b>	査読付き論文の中から、FIT 学術賞選定委員会での論文審査とシンポジウムでの発表審査に基づき <b>3 件</b> 選ばれます。賞金は <b>20 万円</b> です。
<b>FIT 論文賞</b>	査読付き論文の中から、FIT 学術賞選定委員会での論文審査に基づき <b>7 件</b> 選ばれます。賞金は <b>5 万円</b> です。
<b>ヤングリサーチャー賞</b>	33 歳未満の講演者の中から、特に優れた発表をされた方が選ばれます。賞金は <b>3 万円</b> です。

9 月初旬のさわやかな北海道で、皆さんの研究成果を発表するすばらしい機会です。是非ともふるって御応募下さい。

### 【応募講演内容】

最近行った研究及び調査の報告、または成果を挙げた新しい企画及び試験結果の報告、新製品の紹介等で、学術的に価値のある未発表のものに限ります。

論文の種類には、査読付き論文と一般論文があります。査読付き論文は内容を査読し、採録になった論文を、情報技術レターズ (Information Technology Letters) という独立した講演論文集に掲載します。なお不採録となった論文は一般論文として扱います。一般論文は従来の全国大会と同様のものです。ただし、内容が不相当であるものは採録致しません。

### 【応募分野(予定)】

以下の 15 の分野で論文の応募を行います。なお論文の募集、査読付き論文の査読などは、情報処理学会及び電子情報通信学会の研究会 (研究グループと時限研究会を含む) を中心に進めます。各分野に対応する研究会は以下のようになります。なお、☆は情報処理学会、※は電子情報通信学会情報システムソサイエティ、◇は電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループを示します。

なお、この応募分野は予定であり正式な分野につきましては追って標記の FIT2003 ホームページに掲載致しますので御確認下さい。

- アルゴリズム・基礎
- ☆アルゴリズム (AL)

- ☆数理モデル化と問題解決 (MPS)
- ☆ハイパフォーマンスコンピューティング (HPC)
- ※コンピューテーション (COMP)
- ソフトウェア
- ☆ソフトウェア工学 (SE)
- ☆プログラミング (PRO)
- ☆システムソフトウェアとオペレーティング・システム (OS)
- ※ソフトウェアサイエンス (SS)
- ※知能ソフトウェア工学 (KBSE)
- アーキテクチャ・ハードウェア
- ☆計算機アーキテクチャ (ARC)
- ☆システム LSI 設計技術 (SLDM)
- ※コンピュータシステム (CPSY)
- ※ディペンダブルコンピューティング (DC)
- データベース
- ☆データベースシステム (DBS)
- ☆情報学基礎 (FI)
- ※データ工学 (DE)
- 自然言語・文書
- ☆自然言語処理 (NL)
- ☆デジタル・ドキュメント (DD)
- ※言語理解とコミュニケーション (NLC)
- 音声・音楽
- ☆音声言語情報処理 (SLP)
- ☆音楽情報科学 (MUS)
- ※音声 (SP)
- 人工知能
- ☆知能と複雑系 (ICS)
- ☆ゲーム情報学 (GI)
- ※人工知能と知識処理 (AI)
- ※情報論的学習理論時限研究会 (IBIS-TG)
- 生体情報科学
- ※ニューロコンピューティング (NC)
- ※ME とバイオサイバネティクス (MBE)
- ※医用画像 (MI)
- 画像認識・メディア理解
- ☆コンピュータビジョンとイメージメディア (CVIM)
- ※パターン認識・メディア理解 (PRMU)
- グラフィクス・画像
- ☆グラフィクスと CAD (CG)
- ☆オーディオビジュアル複合情報処理 (AVM)
- ※画像工学 (IE)
- ヒューマンコミュニケーション & インタラクション
- ☆ヒューマンインタフェース (HI)
- ◇ヒューマンコミュニケーション基礎 (HCS)
- ◇ヒューマン情報処理 (HIP)
- ◇マルチメディア・仮想環境基礎 (MVE)
- ◇福祉情報工学 (WIT)
- ※教育工学 (ET)
- インターネット
- ☆分散システム/インターネット運用技術 (DSM)
- ☆高品質インターネット (QAI)
- ※インターネット時限研究会 (INT-TG)
- ネットワーク・モバイルコンピューティング
- ☆グループウェアとネットワークサービス (GN)
- ☆モバイルコンピューティングとユビキタス (MBL)
- ☆ユビキタスコンピューティングシステム (UBI)
- ☆マルチメディア通信と分散処理 (DPS)
- ☆コンピュータセキュリティ (CSEC)
- 教育・人文科学
- ☆コンピュータと教育 (CE)
- ☆人文科学とコンピュータ (CH)

☆電子化知的財産・社会基盤(EIP)

●情報システム

☆情報システムと社会環境 (IS)

☆高度交通システム (ITS)

☆システム評価 (EVA)

※オフィスインフォメーションシステム (OIS)

※ソフトウェアインタプライズモデリング(SWIM)

【論文ページ数・講演時間】

論文ページ数は査読付き論文, 一般論文ともに標準が2ページ, エキストラページが1ページの計3ページまでです。

ただしエキストラページを利用した場合には別途その分の費用を頂きます。

論文ページ数:標準2ページ+エキストラ1ページ

講演時間:1件20分(発表時間15分, 質疑時間5分)

【使用言語】

日本語または英語

【講演使用機器】

査読付き論文, 一般論文ともプロジェクターとします。

【申込みの日程】

査読付き論文:

[インターネット登録・変更・取消し・査読用投稿締切り]  
平成15年4月30日(水)15:00

[インターネット投稿締切り]  
平成15年7月11日(金)15:00

一般論文:

[インターネット登録・変更・取消締切り]  
平成15年5月22日(木)15:00

[インターネット投稿締切り]  
平成15年7月11日(金)15:00

【申込みの方法, 注意事項】

講演申込み及び論文原稿投稿は Web ページから電子的に受け付けます。詳細は追って標記の FIT2003 ホームページへ掲載致しますので御確認下さい。

一人が複数の発表を行うことを認めます。ただし、内容が極めて類似したものを数件にわたって発表することはできません。なお、プログラム編成上、講演部門の変更を行うこともございます。

【応募者の資格】

応募者の資格は以下のとおりです。

会 員	情報処理学会, 電子情報通信学会, 電気学会, 照明学会, 映像情報メディア学会及び電子情報通信学会と協定を締結した海外の学会(大韓電子工学会, IEEE/Com. Soc., IEEE/LEOS, IEEE/EDS, IEEE/CS)または情報処理学会と協定を締結した海外の学会(ACM, IEEE, IEEE/CS, KISS, CSI)の個人会員に限ります。
非会員	上記の学会会員以外の方。

【講演参加費(税込み)】

講演参加費は, 発表料, CD-ROM, プログラム, 参加章の代金を含みます。なお, CD-ROM は大会前に講演者の方に送付しますが, プログラム, 参加章は会場でのお引き渡しとなります。

また, 登録申込締切後, 講演の取消しをされても講演参加費はお支払い頂くこととなりますのであらかじめ御了承下さい。

正会員	10,000 円
学生会員	6,000 円
一般非会員(社会人)	20,000 円
学生非会員	12,000 円

【エキストラページ費用(税込み)】

論文の標準ページ数である2ページを超えてエキストラページ1ページを御利用になられた場合には, 講演参加費にプラスして以下のエキストラページ費を頂きます。

エキストラページ費: 4,000 円

【別刷代(査読付き論文の採録者のみ)(税込み)】

査読付き論文に採録された方には論文の別刷(100部)を御購入頂きます。別刷代は以下のとおりです。

別刷代:20,000 円

【講演者予稿分冊頒布】

講演者は, 御自身の論文が掲載されている講演論文集1部に限り, 6,000 円で, 講演申込み同時予約販売を致します。御希望の方は講演申込書の該当欄に御記入下さい。なお, 講演論文集の一般販売は, 個人購入の場合1部10,000 円, 団体購入の場合15,000 円となります。

【最新情報確認のお願い】

FIT2003 に関する最新情報は, 標記の FIT2003 ホームページへ逐一掲載してゆきますので御確認をお願い致します。

**ORGANIZING COMMITTEES**

**General Chairs:**

Yuji Oie, Kyushu Institute of Tech., Japan  
Sumi Helal, University of Florida, USA

**Program Chairs:**

Shinji Shimojo, Osaka Univ., Japan  
Erich Neuhold, Fraunhofer-IPSI, Germany

**Workshops Chairs:**

Kenichi Yoshida, Univ. of Tsukuba, Japan  
Hossam Hassanein, Queen's U., Canada

**Panels Chairs:**

Kazuo Imai, NTT DoCoMo Labs., Japan  
Henry Tirri, Univ. of Helsinki, Finland

**Tutorials Chairs:**

Hiroshi Esaki, Univ. of Tokyo, Japan  
Wojciech Cellary, Poznan U., Poland

**Registration Chair:**

Tadanobu Okada, NTT Labs., Japan

**Local Arrangements Chairs:**

Junichi Shimada, CRL, Japan  
Kazuo Asakawa, Fujitsu Labs., Japan

**Awards Chairs:**

Hideo Miyahara, Osaka Univ., Japan  
Gul Agha, U. of Illinois, Champaign, USA

**Publication Chairs:**

Kenichi Baba, Osaka Univ., Japan  
Nayeem Islam, DoCoMo Labs., USA

**Designated Technical Comm. Chairs:**

Hideki Sunahara, NAIST, Japan  
Javed Khan, Kent State U., USA

**Financial Chairs:**

Japan  
Kai Chang, Auburn University, USA

**International Liaison Chairs:**

Akira Yamamoto, Hitachi, Japan  
Mostafa Bassiouni, U. C. Florida, USA

**Industry Liaison Chairs:**

Japan  
Peter In, Texas A&M U., USA

**Publicity Chairs:**

Katsuyuki Yamazaki, KDDI Labs., Japan  
Allan Zhang, Microsoft, USA  
Mike Papazoglou, Tilburg U., The Netherlands

**Steering Committee Chair:**

Jun Murai, Keio Univ., Japan

**CALL FOR PAPERS**

**SAINT-2004**

**The 2004 Symposium on  
Applications  
& the Internet**



<http://www.saint2004.org>



*Co-sponsored by the IEEE Computer Society (IEEE-CS)  
and the Information Processing Society of Japan (IPSJ)  
In cooperation with Telecommunications  
Advancement Organization (TAO) of Japan*

**Tokyo, JAPAN  
January 26-30, 2004**

**THEME : The Evolving Internet**

The utility of the Internet is expanding beyond what one could imagine a few years ago. Today, the Internet accommodates a wide variety of information, services, people, communities, and cultures. The Internet is also becoming the engine and the platform of choice for a diverse range of applications and businesses. Additionally, driven by market demands, the Internet is required to be ubiquitous and pervasive; accessible and usable from any device and through any network, including wireless and mobile. The Symposium on Applications and the Internet focuses on emerging and future Internet applications and their enabling technologies. The symposium provides a forum for researchers and practitioners from the academic, industrial, and public sectors, to share their latest innovations on Internet technologies and applications. Areas of particular interest include, but are not limited to:

- Internet Agents.
- Collaboration Technology: groupware & telepresence, Internet communities.
- Internet Content Management Systems: XML and semi-structured data, information fusion, web-based databases, data mining, metadata.
- Internet Content Delivery: web caching, multimedia, media asset management, adaptations, QoS.
- E-business: infrastructure for e-services, brokering, negotiation, B2B, Internet workflow, virtual enterprise.
- Wireless and Mobile Internet: content adaptation, e-services, mobile commerce.
- Standards for Internet Applications: XML, SOAP, UDDI, WSDL, WSFL, ebXML, Java, .NET, Sun One, others.
- GRID Computing.
- Internet Appliances: smart phones, PDAs, sensor networks, smart home.
- Novel Internet Applications: emergency and lifeline support, others.
- Internet Security.
- Network and Protocol Architecture.
- Internet Operation and Performance: measurement, IPv6 operation.

**IMPORTANT DEADLINES**

Paper Submission: July 1, 2003  
Author Notification: Sep. 15, 2003  
Final Manuscript: Oct. 7, 2003  
Workshop Proposals: July 1, 2003  
Workshop Notification&CFP: Aug. 1, 2003  
Workshop Paper Submission: Oct. 7, 2003  
Workshop Final Manuscript: Nov. 1, 2003  
Panel Proposals: July 1, 2003  
Tutorial Proposals: July 1, 2003

**Paper Submission**

Paper submission and review will be done electronically. Information for prospective authors, including paper format and instructions can be found in the web page.

**Workshops, Panels and Tutorials**

Full- and half-day workshop, panels and tutorial proposals related to SAINT 2004 theme are solicited. Workshop proposals should be submitted directly to Workshops Chairs (yoshida@gssm.otsuka.tsukuba.ac.jp & hossam@cs.queensu.ca). The Workshops Call For Papers will be announced accordingly. Panel proposals should be submitted directly to Panels Chairs (imai@netlab.nttdocomo.co.jp & Henry.Tirri@cs.helsinki.fi). Tutorial proposals should be submitted directly to Tutorials Chairs (hiroshi@wide.ad.jp & cellary@kti.ae.poznan.pl).

**Publications**

The Proceedings of the Symposium and the Workshops will be published by the IEEE Computer Society Press. There are plans to invite several authors to provide paper revisions for special issues of IEEE-CS or IPSJ magazines and journals.

**Best Paper Award**

A best paper will be selected and recognized by the Program Committee and the Awards Chairs.

日本印刷技術協会が主催している印刷・DTP関連の展示会「PAGE2003」に行ってきました。最初に行ったのがたしかPAGE95でしたから、かれこれもう9年通っていることになります。この展示会を見ていると印刷業界の変遷がよく分かります。9年前には写植機や製版機が主な展示物でしたが、5年ほど前からDTP関連になり、今年は紙への出力はもう行き詰まったのでしょうか。メインはWeb PublishingやXMLでした。

当会誌の印刷方式を振り返ってみると、10年前にはまだ活版印刷でした。それが電算写植になり、5年前にDTPの導入、今はCTP(Computer To Plate)を行っています。本ができあがるまでには、組版→製版→刷版→印刷→製本という工程が必要ですが、当会の場合は、事務局でDTPによる編集を行うことで組版・製版代に相当する部分の費用を削減しています。少し自慢になりますが、他の学協会の中でも当会の編集技術は最先端をいっている方で、まだまだ組版から印刷所に依頼するという方法が主流なのが現状です。

このように当会の会誌編集がこれだけ印刷費を削減できているのは、長年つきあっている印刷屋さんとの信頼関係によるところが大きいと思います。DTPやCTPなど新しい印刷方式に移行するためには、事務局側の意識改革と努

力はもちろんのこと、それを確実に受け止めてもらえる印刷屋さんの技術と協力が不可欠です。今年も予算の時期になり、例によって印刷費を減らすようにとか、もっと安い印刷所に変えたらどうかと突かれています。私たち編集側にとって印刷屋さんは大切なパートナーであり、たとえばそれは有能な秘書のような存在です。「これコピーをお願い」と一言頼んだだけで何部とればいいのか、両面にするのか、表紙をつけるのかなど阿吽の呼吸で適切に処理し、ついでに日付けの間違いをそっと直してくれるようなありがたい存在なのです。そして時には「コピーはコストがかかります。資料はOHPにしたらどうですか」などと提言もしてくれる。

コスト削減のために毎年のように新しい試みをしつつも、大きなミスなく無事に会誌を毎月発行できているのは、何ととっても影で支えてくれている印刷屋さんの力によるところが大きいということを、ぜひこの場を借りて言わせていただきたいと思います。

印刷業界も紙からWebへと主流が移っていく勢いです。この会誌もあと何年紙で発行できるのか分かりませんが、今後お互いに切磋琢磨できるような関係であり続けたいと思っています。

(後路啓子/会誌部門)

◆各種問合せ先 (社) 情報処理学会 (本部) ※支部所在地等詳細はリンクされている各支部ページでご参照ください。  
〒108-0023 東京都港区芝浦 3-16-20 芝浦前川ビル 7F  
Tel(03)5484-3535 Fax(03)5484-3534 <http://www.ipsj.or.jp/>

担当	E-mail	項目
総務	somu@ipsj.or.jp	理事会, 支部, 役員選挙, 名誉会員
会員	mem@ipsj.or.jp	入会, 会費, 変更連絡, 退会, 在会証明, 会員証
経理	keiri@ipsj.or.jp	出納
システム企画	sys@ipsj.or.jp	システム企画, 電子化委員会
調査研究	sig@ipsj.or.jp	研究会登録, 研究発表会, シンポジウム
事業	jigyo@ipsj.or.jp	全国大会, 連続セミナー, プログラミング・シンポジウム
国際	intl@ipsj.or.jp	国際会議, IFIP 委員会
図書	tosho@ipsj.or.jp	出版物購入
会誌	editj@ipsj.or.jp	会誌「情報処理」の掲載内容, 広告掲載, 転載許可, 出版
論文誌	editl@ipsj.or.jp	情報処理学会論文誌
規格部 (情報規格調査会)	standards@itscj.ipsj.or.jp	標準化フォーラム 〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3 Tel(03)3431-2808 Fax(03)3431-6493 <a href="http://www.itscj.ipsj.or.jp/">http://www.itscj.ipsj.or.jp/</a>

## ご意見をお寄せください！

【4月10日頃までにお出しく下さい】

宛先 (社) 情報処理学会 モニタ係 (下記のいずれからも送付できます)  
http://www.ipsj.or.jp/enq/enq4403.html Fax(03)5484-3534 E-mail:editj@ipsj.or.jp  
(E-mailで送信される場合は、10-1-aのようにコードでお答えください)

[コード]

1. ご氏名
2. ご所属 Tel. (            )            -
3. E-mail:
4. 業種: (a) 企業 (サービス業) (b) 企業 (製造業) (c) 研究機関 (d) 教育機関 (大学・高専など)  
(e) 学生 (f) その他 ..... 4-
5. 職種: (a) 研究職 (b) 開発・設計 (c) システムエンジニア (d) 営業 (e) 本社管理業務  
(f) 会社経営・役員・管理職 (g) 教官/教員 (大学・大学院) (h) 教職員 (小・中・高校・高専など)  
(i) 学生 (j) その他 ..... 5-
6. 年齢: (a) 10代 (b) 20代 (c) 30代 (d) 40代 (e) 50代 (f) 60代以上 ..... 6-
7. 性別: (a) 男性 (b) 女性 ..... 7-
8. あなたはモニタですか?: (a) はい (b) いいえ ..... 8-
9. あなたのご意見は「会員の広場」に掲載される場合があります。その場合:  
(a) 実名可 (氏名のみ掲載) (b) 匿名希望 ..... 9-
10. 今月号 (2003年3月号) の記事についてのあなたの評価をご記入ください。  
[a...大変参考になった b...よい c...普通, どちらとも言えない d...悪い e...読んでいない]
- 特集: インフォメーションハイディング  
インフォメーションハイディングの概要 ..... 10-1-  
画像を用いたステガノグラフィ ..... 10-2-  
音声・音楽を用いたインフォメーションハイディング ..... 10-3-  
ドキュメントへのインフォメーションハイディング ..... 10-4-  
通信におけるインフォメーションハイディング ..... 10-5-  
インフォメーションハイディングの社会的側面 ..... 10-6-  
コンテキストウェアネスを用いたアプリケーションの研究動向 ..... 10-7-  
日本の情報処理技術の足跡: プラグコンパティブル・メインフレームの盛衰 (1) ..... 10-8-  
パーソナルスーパーコンピュータ SX-6i ..... 10-9-  
とっきょの話: 情報化と特許制度 ..... 10-10-  
プログラム・プロムナード: 大小の贈り物 ..... 10-11-  
20世紀の名著名論: Noam Chomsky: Syntactic Structures ..... 10-12-  
20世紀の名著名論: John McCarthy: Recursive Functions of Symbolic Expressions and Their Computations by Machine ..... 10-13-  
モバイルは今: 自動車とインターネット ..... 10-14-  
ITルネサンスのために: ヒューマンインタフェースの復権を: あなたはデフォルト派ですか, カスタマイズ派ですか? ..... 10-15-  
日本のIT事情: 情報処理からこぼれ落ちる問題を救うはずの人間のマニュアル化について ..... 10-16-  
アメリカITまわりの話題: ぶしつけなコンピュータ ..... 10-17-  
研究会たより: 困った ..... 10-18-
11. 特に興味を持ってお読みになった記事とその感想をお書きください。
12. 著者への質問・今後取り上げて欲しいテーマ・また「道しるべ」に取り上げてほしいテーマなどありましたらお書きください。

「編集にあたって」に書いたように、特集「インフォメーションハイディング」の目的は、技術動向を鳥瞰すること、関連用語の整理であった。そのための方針として、以下を重視した。

- 1) 技術動向の解説は、メディアごとに行うこと
- 2) 全体の動向解説記事を最初に掲載し、そこで用語の整理を行うこと

こうした方針での編集に際し、考えさせられた事項は、1) におけるメディアの選び方である。画像および音声・音楽は一般的であるが、それだけでは技術全体を語ることにはならない。私自身がテキスト

へのインフォメーションハイディングを研究しているため、ドキュメントの記事も入れることにした。そして、プロトコル等を用いたインフォメーションハイディングの解説の必要性を感じ、「通信における...」という記事を企画したのである。

なお、本特集は企画当初は、8本の記事の予定であったが、私の力不足で、執筆者からの辞退が相次ぎ6本となってしまった。この件に関して、関係者に深くお詫び申し上げたい。

(村瀬一郎/本特集エディタ)

### 次号 (4月号) 予定目次

編集の都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

#### 「特集」ソフトウェア管理技術の最新動向を探る

ソフトウェア管理技術の先端動向の紹介/定着を重視したソフトウェア開発プロセス改善活動/ソフトウェアプロセス成熟度向上のための基盤技術の開発と展開/自動車組み込みソフトウェア開発の現状と動向/オープンソースソフトウェア「じゅん」の構成管理/大規模システム開発プロジェクト事例研究/情報システムの脆弱性を意識したソフトウェア開発管理

#### 解説

ソフトウェア産業にもデフレがやってくる..... 松原友夫  
最先端の自動並列化コンパイラ技術..... 笠原博徳  
PC サーバの入出力インタフェース動向 ..... 阿部晋樹 他

連載 XML 誕生秘話/とっきよ Now! /日本の情報処理技術の足跡/プログラム・プロムナード

コラム ITルネサンスのために: ヒューマンインタフェースの復権を/アメリカ ITまわりの話題/研究会たより/  
20世紀の名著名論/日本のIT事情/モバイルは今

# 会員募集中!!

**ITの最新情報, 研究発表の場の提供を通じて,  
あなたのお役に立ちます。**

詳しくはWebサイト <http://www.ipsj.or.jp/> をご覧ください

申込/照会先 社団法人 情報処理学会

〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F

Tel(03)5484-3535 Fax(03)5484-3534 E-mail:mem@ipsj.or.jp



#### 複写される方に

##### 〔R〕<学術著作権協会依頼>

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外は、図書館も著作権者から複写権の行使の委託を受けている次の団体から許諾を受けてください。著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接当学会へご連絡ください。

〒170-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル

学術著作権協会

E-mail:naka-atsu@mju.biglobe.ne.jp

Tel (03)3475-5618 Fax (03)3475-5619

ただし、アメリカ合衆国における複写については、右記の In the USA に記載の所へご照会ください。

#### Notice about Photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization, which has been delegated for copyright for clearance by the copyright owner of this publication.

Except in the USA

Japan Academic Association for Copyright

Clearance (JAACC)

6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo

107-0052, Japan

E-mail:naka-atsu@mju.biglobe.ne.jp

Tel: 81-3-3475-5618 Fax: 81-3-3475-5619

In the USA

Copyright Clearance Center, Inc. (CCC)

222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923, USA

Phone: (978)750-8400 Fax: (978)750-4744

<http://www.copyright.com>

## 掲載広告カタログ・資料請求用紙

掲載広告の詳しい資料をご希望の方は、必要事項をご記入の上、E-mail:sei@ss-com.co.jp または Fax.03-3368-1519 へご請求ください。

「情報処理」 月号をみて

広告主名	製品名	希望項目 <sup>※</sup>	その他要望事項

※希望項目：A 購入希望、B 担当者から連絡・訪問希望、C カタログ希望

フリガナ  
お名前

\_\_\_\_\_

勤務先

所属部署

\_\_\_\_\_

所在地

(〒 \_\_\_\_\_ )

TEL ( \_\_\_\_\_ )

-

FAX ( \_\_\_\_\_ )

-

ご専門の分野

\_\_\_\_\_

広告のお問合せ・お申込みは・・・広告総代理店（株）精機通信社へ

発行 社団法人 情報処理学会  
 発行部数 30,000 部  
 体裁 A4 判  
 発行日 毎当月 15 日  
 申込締切 前月 10 日  
 原稿締切 前月 20 日  
 広告原稿 オフセット用ポジフィルム  
 原稿寸法 1 頁 天地 260mm × 左右 180mm  
 1/2 頁 天地 125mm × 左右 180mm  
 雑誌寸法 天地 297mm × 左右 210mm

お問合せ・お申込みは  
 広告総代理店  
**（株）精機通信社** Tel.03-3367-0571  
 〒 169-0073 東京都新宿区百人町 2-16-13  
 Fax.03-3368-1519 E-mail: sei@ss-com.co.jp

### ■ 広告料金表

掲載場所	4 色	2 色	1 色
表 2	330,000	—	—
表 3	275,000	—	—
表 4	385,000	—	—
表 2 対向	300,000	—	—
表 3 対向	265,000	190,000	155,000
前付 1 頁	250,000	165,000	135,000
前付 1/2 頁	—	—	80,000
前付最終	—	—	148,000
目次前	—	—	148,000
差込 (A4 判 70.5kg 未満 1 枚)	275,000		
差込 (A4 判 70.5kg ~ 86.5kg 1 枚)	350,000		

\* 上記料金はポジフィルム納入による料金です。  
 \* 版下・製版等が必要な場合には別途実費申し受けます。  
 \* 断切広告は上記料金の 10% 増です。ただし、表 4 は不可。  
 \* 上記料金には消費税は含まれておりません。